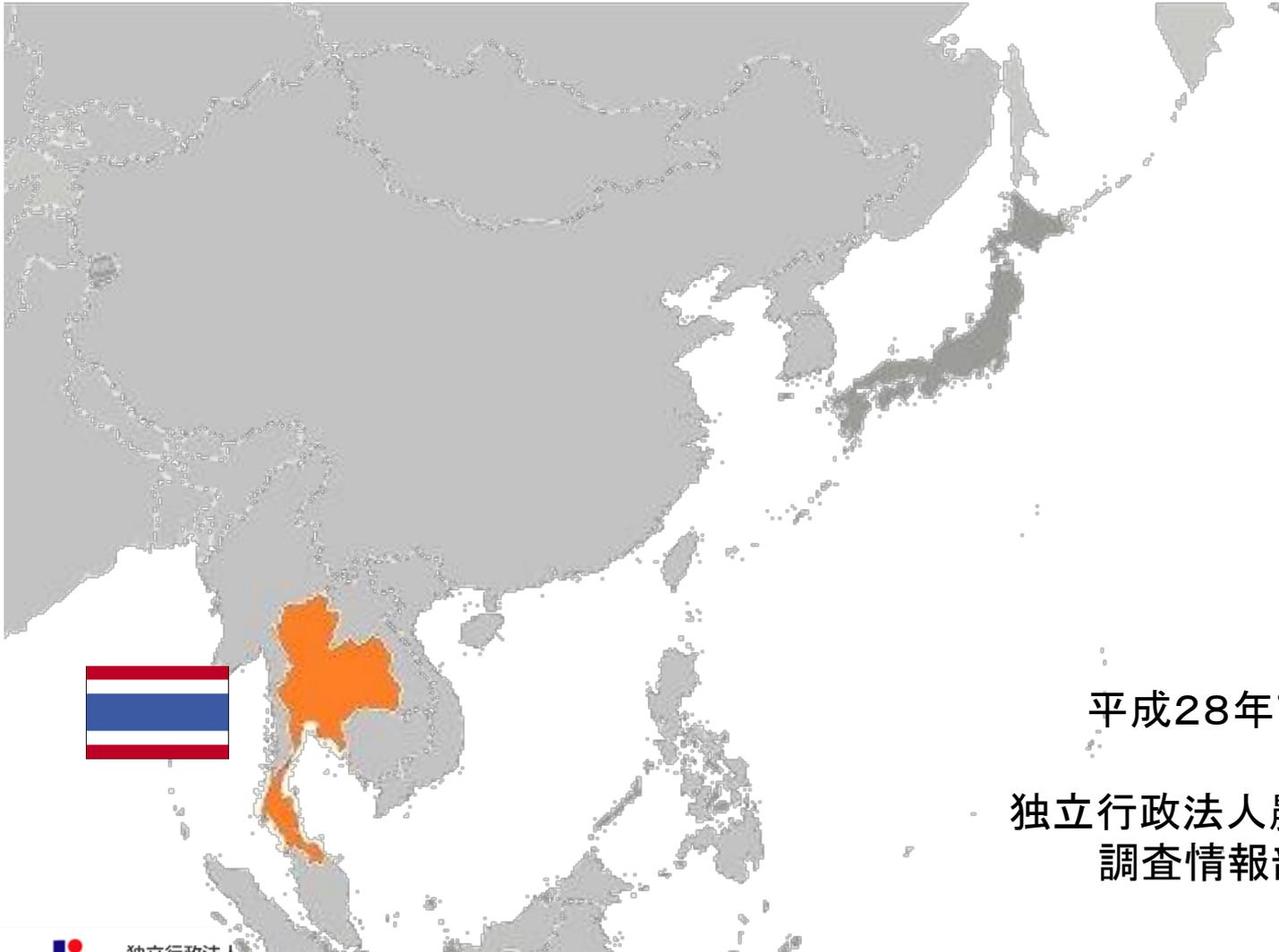


生鮮鶏肉輸出再開後の タイの鶏肉産業の動向



平成28年7月27日(水)

独立行政法人農畜産業振興機構
調査情報部 木下 雅由

はじめに

【本資料における言葉の定義】



- 生鮮鶏肉
加熱処理されていない鶏肉
(冷蔵又は冷凍したもの)



- 半製品
生鮮鶏肉のうち、味付け、衣付けなどを施したものの(加熱されていない鶏肉調製品)



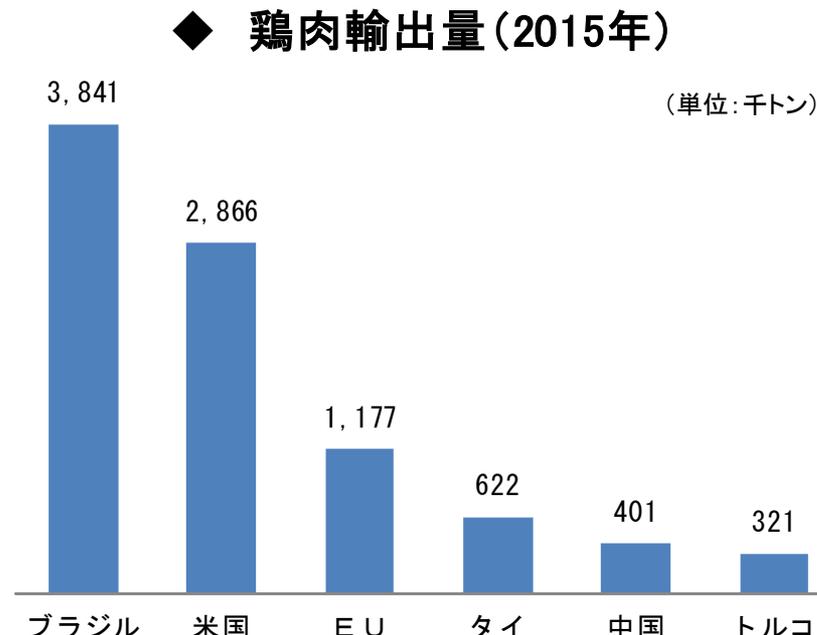
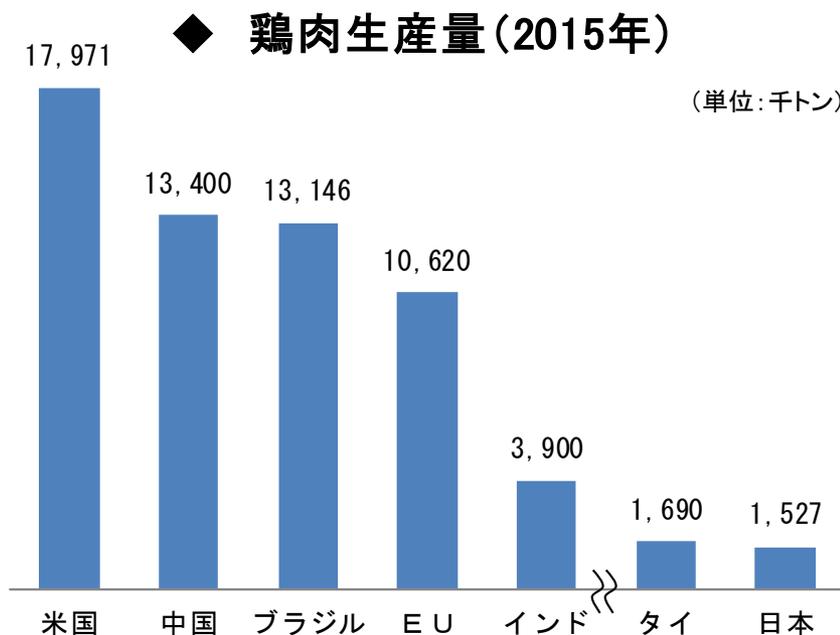
- 加熱加工品
鶏肉に加熱処理を施したものの
(味付け、衣付けなどを施したものを含む)

本資料の構成

1. タイ産鶏肉の位置
2. タイの鶏肉産業
3. 家きん防疫の取組み
4. 鶏肉生産・輸出の見通し
5. まとめ

1 タイ産鶏肉の位置 ～世界における位置づけ～

- タイの鶏肉生産量は、米国、中国、ブラジル等の主要生産国に比べて少なく、日本よりわずかに多い程度。
- タイの鶏肉輸出量は、ブラジル、米国、EUに次ぐ世界第4位。

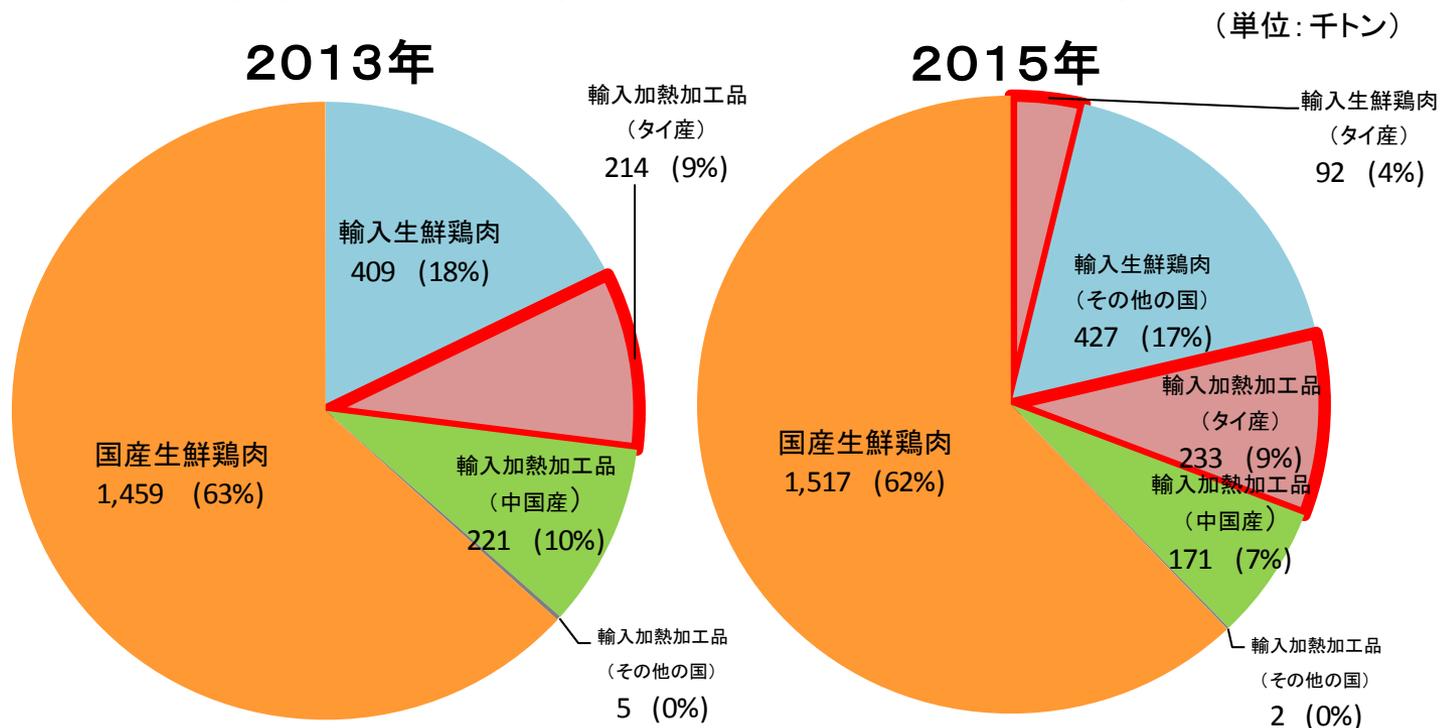


資料: USDA、(独)農畜産業振興機構推計

1 タイ産鶏肉の位置 ~日本における位置づけ~

- 日本の鶏肉消費の4割弱が輸入。輸入は、生鮮鶏肉と加熱加工品が概ね半数ずつ。
- 日本の鶏肉消費に占めるタイ産鶏肉の割合は1割強。

◆ 鶏肉(生鮮及び輸入加熱加工品)の国内供給量



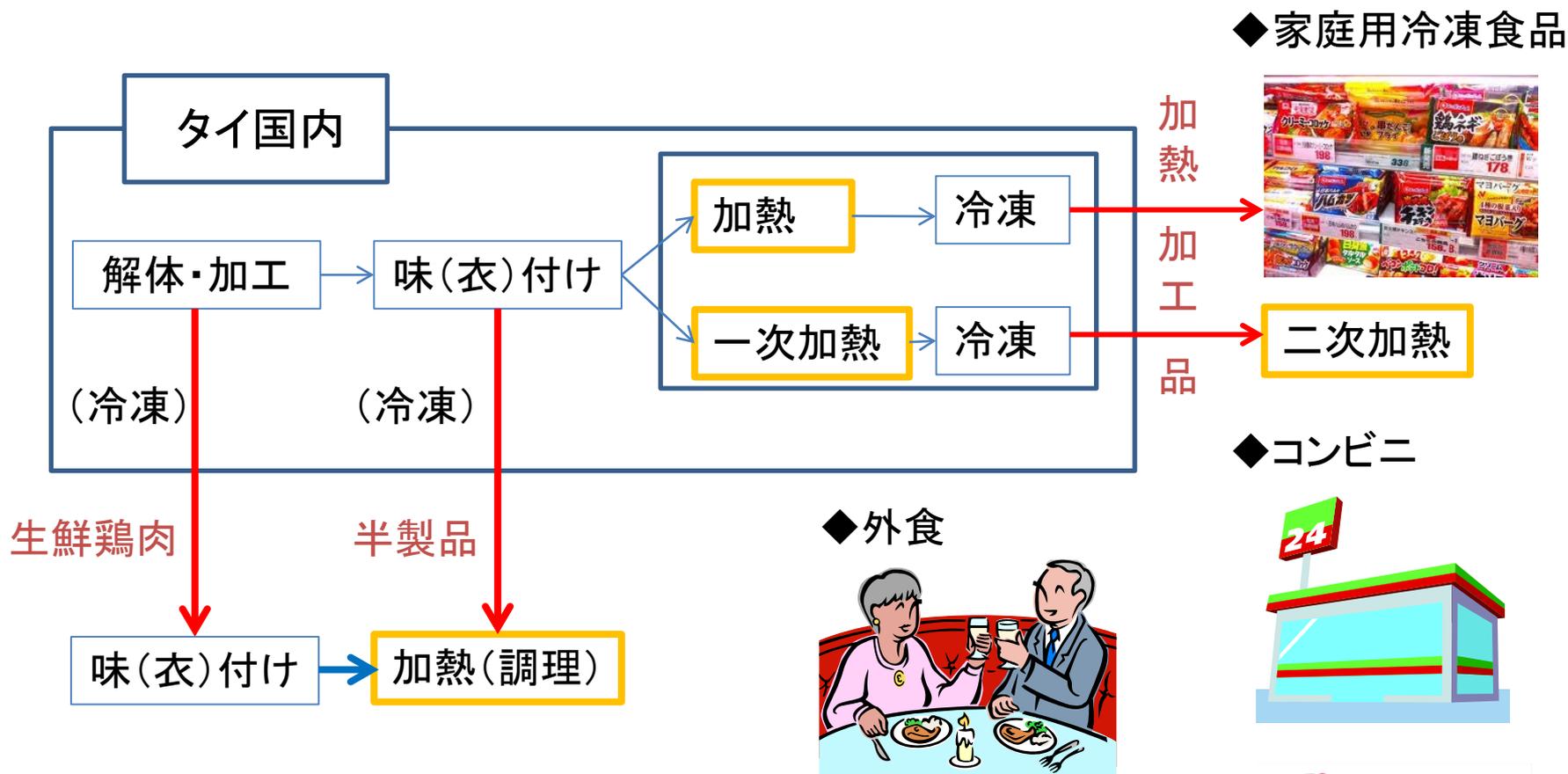
資料：財務省「貿易統計」、農林水産省「食料需給表」

注1：HSコード：輸入冷凍鶏肉（020714）および輸入加熱加工品（160232）

注2：輸入品については、鶏肉の歩留まりを考慮していないので、食料需給表の数値とは異なる。

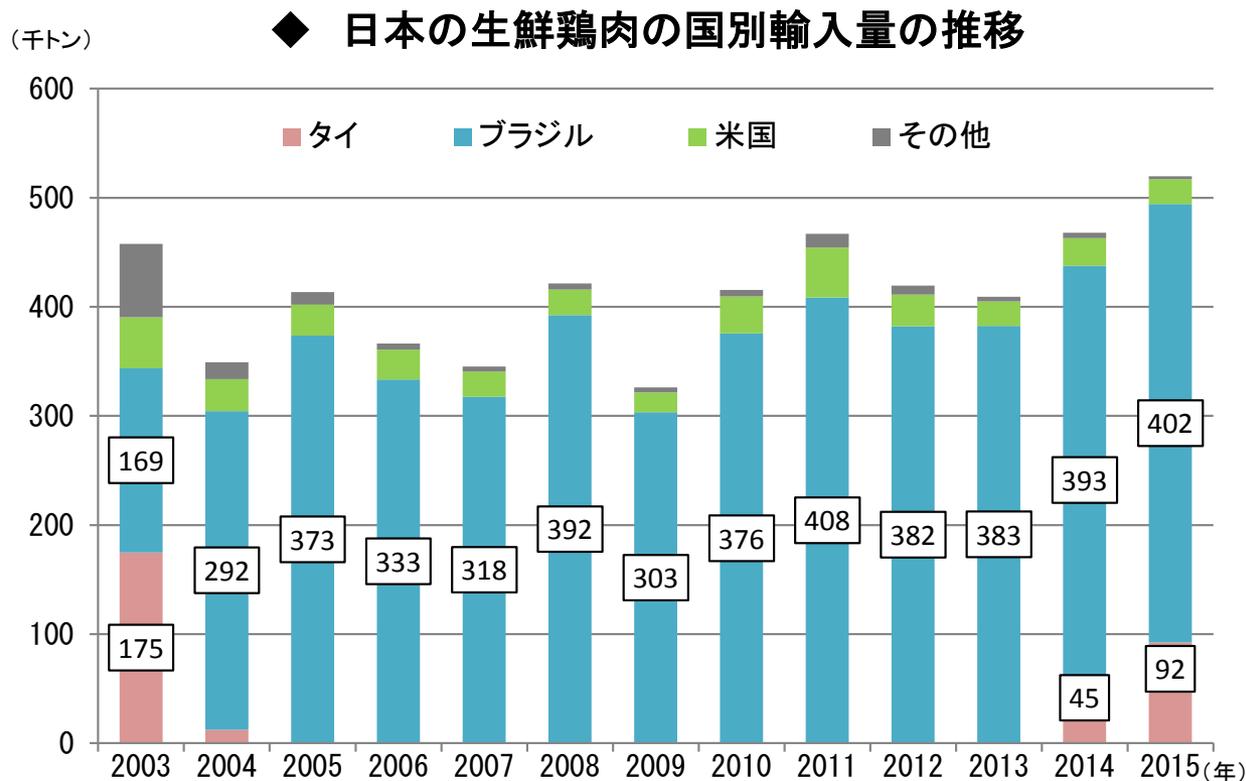
1 タイ産鶏肉の位置 ～日本市場への流通形態～

- タイ産鶏肉は、家庭用冷凍食品、コンビニのレジ回り品、外食などで幅広く取り扱われている。



1 タイ産鶏肉の位置 ～日本の生鮮鶏肉輸入の推移～

- タイにおける鳥インフルエンザ発生（2004年1月）以降、生鮮鶏肉の輸入先はブラジルにシフトし、ブラジル産が約9割。
- 生鮮鶏肉輸入量は40万トン前後で推移してきたが、タイ産の輸入解禁（2013年12月）により、2014年以降増加傾向。



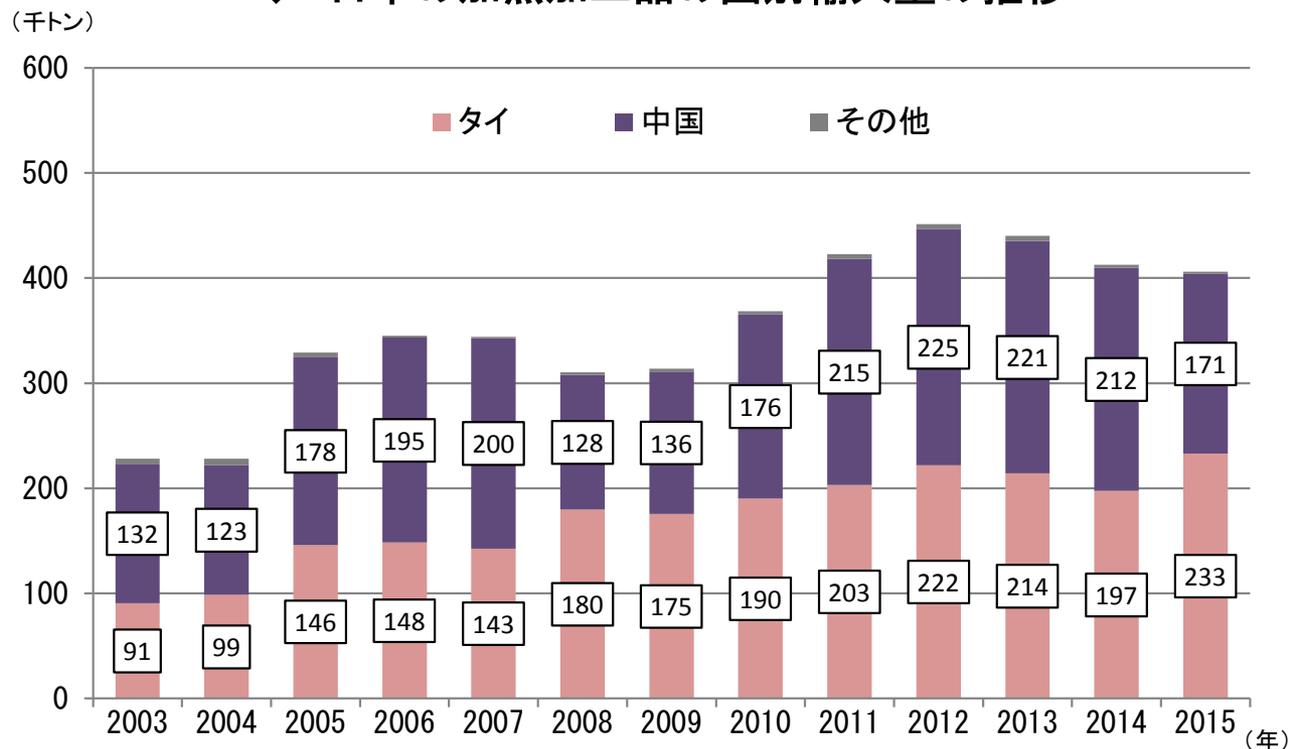
資料：財務省「貿易統計」

注：HSコード：020714-210, 220（冷凍鶏肉-骨付き、その他）

1 タイ産鶏肉の位置 ～日本の加熱加工品輸入の推移～

- 日本が輸入する加熱加工品は、ほぼタイ産と中国産。
- 加熱加工品の輸入量は増加傾向で推移してきたが、2013年以降、中国産が減少。

◆ 日本の加熱加工品の国別輸入量の推移



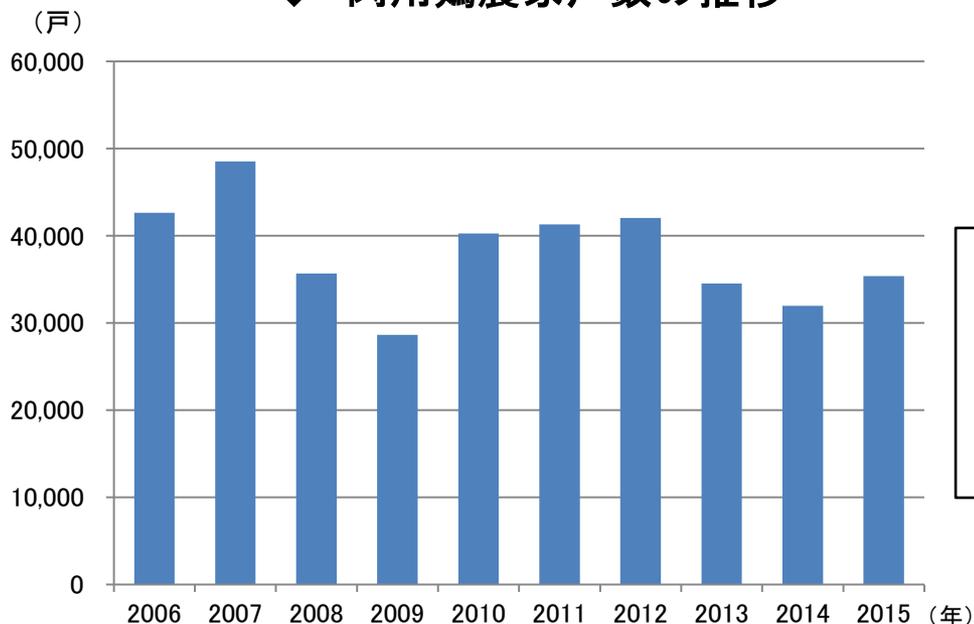
資料：財務省「貿易統計」

注：HSコード：160232-290（加熱加工鶏肉）

2 タイの鶏肉産業 ～肉用鶏農家と契約生産～

- 肉用鶏農家は、タイ中部を中心に約35,000戸。このうち、輸出向け登録農場が5,700、残りは国内向け専用。
- 生産量は、輸出向け農場が約8割、国内向け農場が約2割。
- ほとんどが鶏肉企業との契約生産。

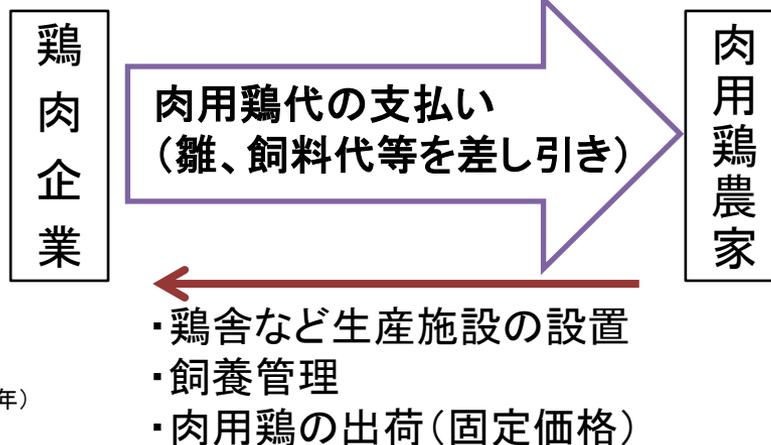
◆ 肉用鶏農家戸数の推移



資料：タイ農業協同組合省

◆ 契約生産の概要

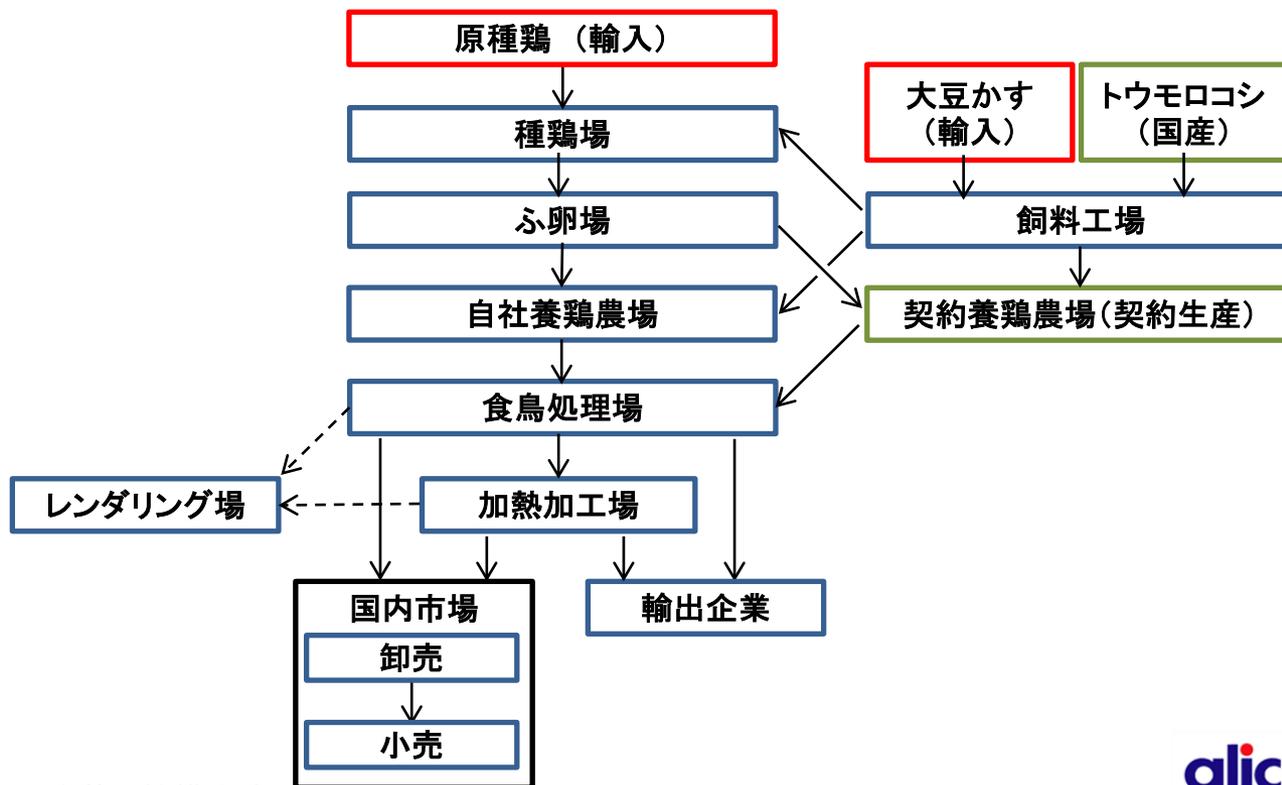
- ・雛、飼料の供給(固定価格)
- ・飼養管理の指導
- ・肉用鶏の出荷指示



2 タイの鶏肉産業 ～インテグレーション～

- 鶏肉企業は、購入したひなを契約農家に育てさせて食鳥処理場に販売するだけの企業から、種鶏場、食鳥処理場、飼料工場などを自社で所有するインテグレーション企業までさまざま。

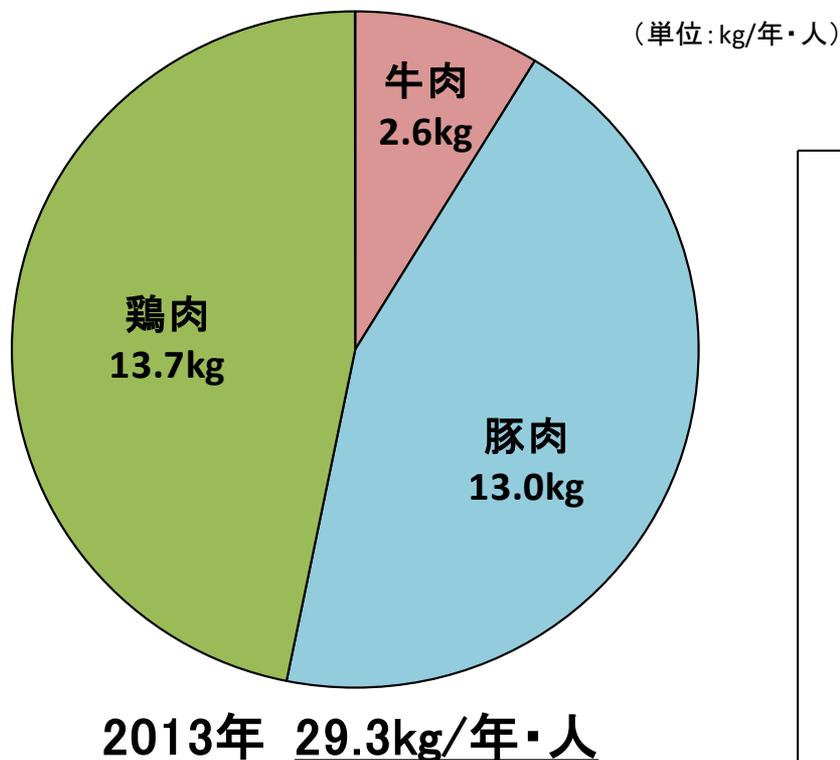
◆ インテグレーション概念図



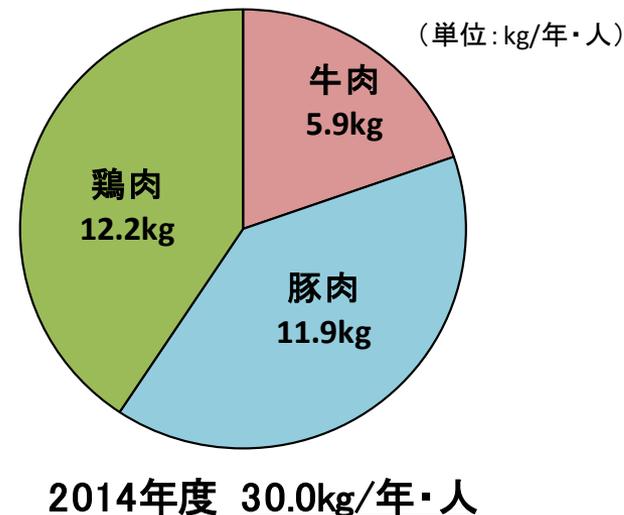
2 タイの鶏肉産業 ～タイの国内消費～

- タイの食肉消費は鶏肉が最も多く、食肉消費全体の約半数を占める。

◆ タイの年間1人当たり食肉消費の内訳



(参考) 日本の食肉消費の内訳



資料: タイはFAOSTAT「Food Balance Sheet」、日本は食料需給表(2014年度概算値)

2 タイの鶏肉産業 ～タイ国内の鶏肉販売風景～

- 生鮮鶏肉は、百貨店、スーパー、伝統的な露店など様々なチャネルで販売。



百貨店の陳列棚



スーパーの陳列棚



伝統的な露店での鶏肉販売

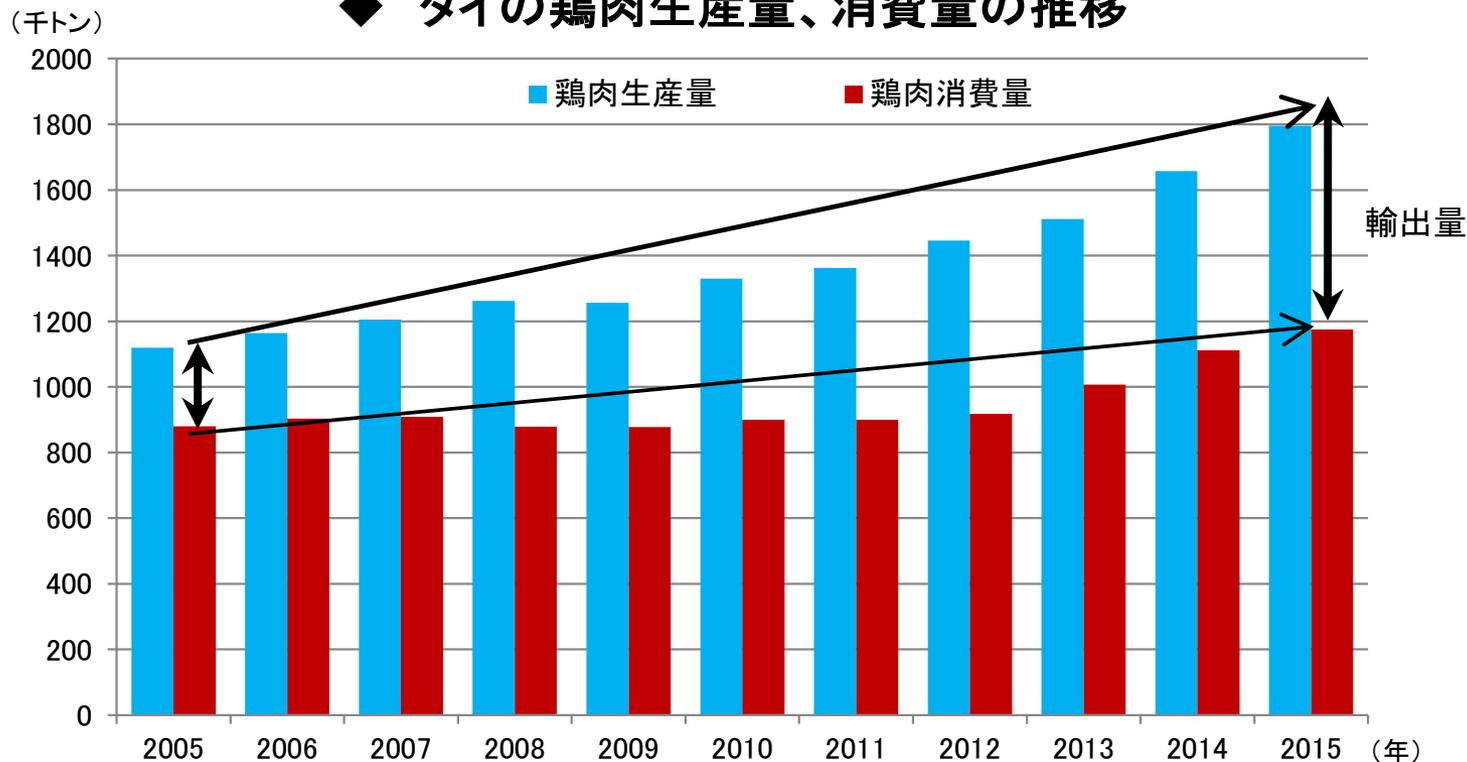


伝統的な露店での肉用鶏販売

2 タイの鶏肉産業 ～鶏肉の需給構造～

- タイの鶏肉生産量は、輸出の伸びを背景に増加傾向。輸出企業が需要に応じて生産量を調整。
- 近年は、国内消費が約7割、輸出が約3割。

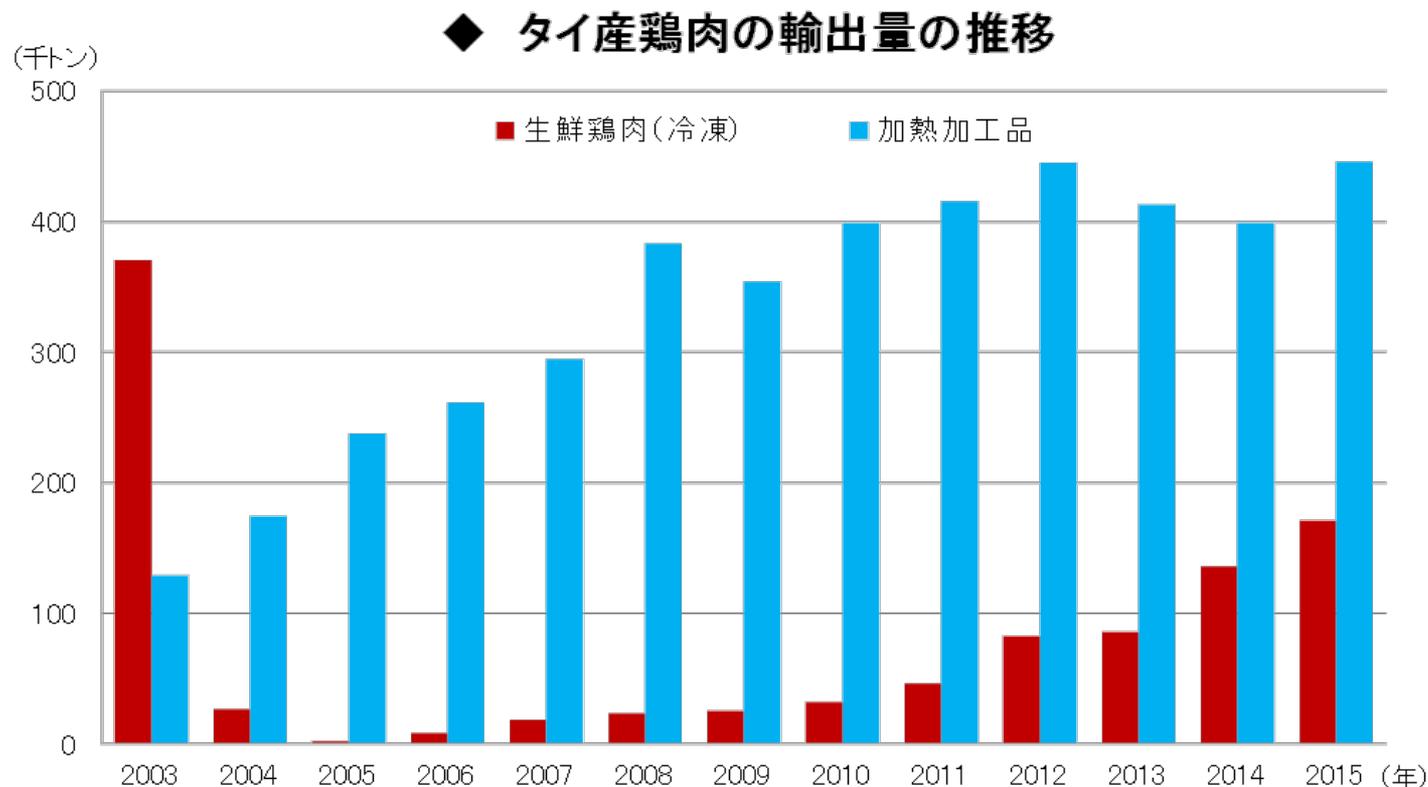
◆ タイの鶏肉生産量、消費量の推移



資料：タイ農業協同組合省、財務省
注：生産量は可食処理ベース。

2 タイの鶏肉産業 ～生鮮と加熱加工品の輸出動向～

- 2004年1月の鳥インフルエンザ発生により、生鮮鶏肉輸出が停止。それ以降、加熱加工品の輸出にシフト。
- 生鮮鶏肉輸出は、2012年2月にEU向け、2013年12月に日本向けが解禁し、輸出量は増加傾向。



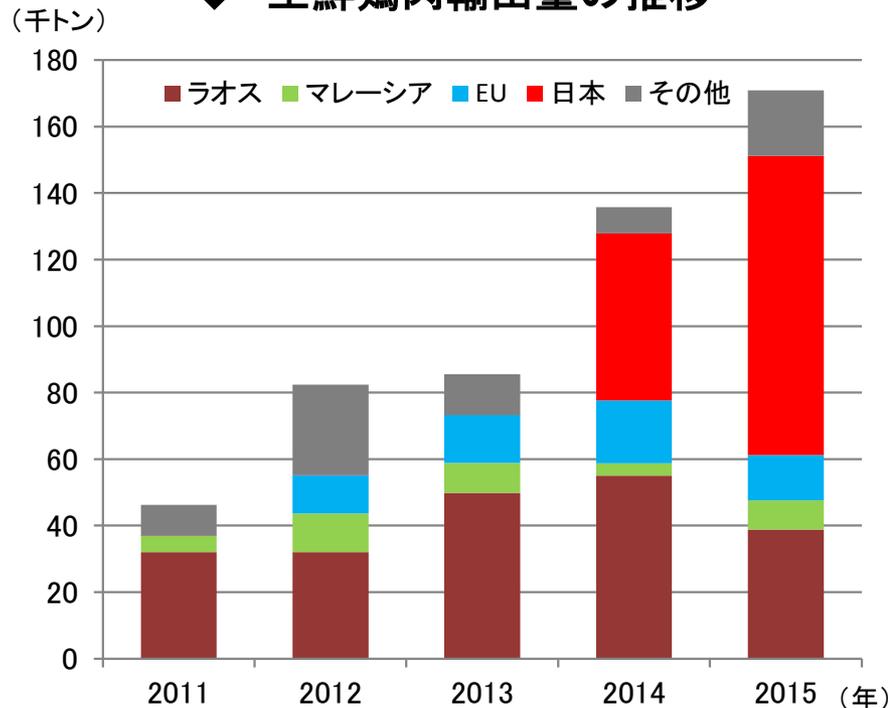
資料：Global Trade Atlas

注：HSコード：冷凍鶏肉（020714）および加熱加工品（160232）

2 タイの鶏肉産業 ～生鮮・加熱加工品の国別輸出動向～

- 生鮮鶏肉の輸出先は、ラオス、マレーシア、EUに加え、日本向けが解禁後2年で急増。
- 加熱加工品の輸出先は、日本とEUで9割。

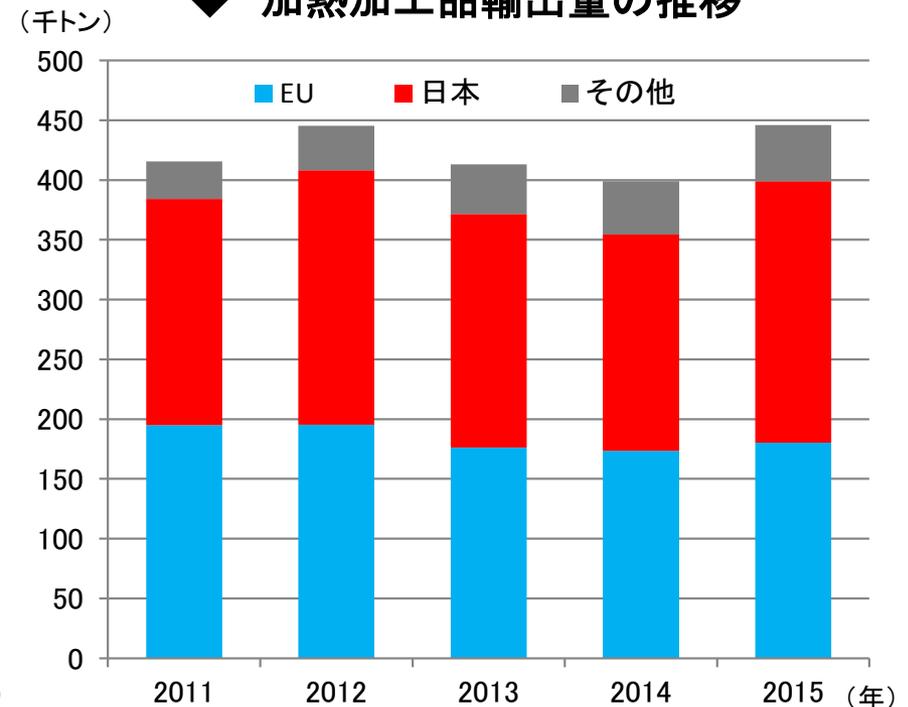
◆ 生鮮鶏肉輸出量の推移



資料：Global Trade Atlas

注：HSコード：冷凍鶏肉 (020714)

◆ 加熱加工品輸出量の推移



資料：Global Trade Atlas

注：HSコード：加熱加工品 (160232)

2 タイの鶏肉産業 ～加熱加工品の輸出～

- 輸出する加熱加工品は、食習慣の違いから、主に日本向けはモモ肉、EU向けはムネ肉。
- 加熱加工品の方が、生鮮鶏肉より付加価値が高いことから、生鮮鶏肉輸出が再開しても加熱加工品での輸出を志向。

日本向けモモ肉



EU向けムネ肉



◆ タイ産生鮮鶏肉の輸出価格(2015年)

(単位:米ドル/トン)

日本	EU	ラオス	マレーシア
2,757	2,734	2,061	1,655

資料: Global Trade Atlas

注1: HSコード: 冷凍鶏肉 (020714)

2: FOB価格。

◆ タイ産加熱加工品の輸出価格(2015年)

(単位:米ドル/トン)

日本	EU		
	英国	オランダ	ドイツ
4,432	4,351	4,195	4,226

資料: Global Trade Atlas

注1: HSコード: 加熱加工品 (160232)

2: FOB価格。

3 家きん防疫の取り組み ～リスクに応じた農場管理～

- タイ農業協同組合省畜産局は、鳥インフルエンザ発生後、防疫体制を強化。家きん類の飼養農場を6つに分類して管理。
- 飼養羽数3,000羽以上の農場は、飼養標準の遵守について、畜産局の承認が必要。

◆ 家禽類の飼養農場の分類とAIのサンプリング頻度

分類	AI防除計画によるサンプリング	リスク
コンパートメント	年2回	
標準化農場	ブロイラーは6カ月に1回、採卵鶏は4カ月に1回	
非標準化農場	飼育サイクル(34～42日程度)毎	
地鶏(裏庭養鶏)	1月と7月の年2回	
闘鶏及び観賞用	養鶏場として認証を受けた後、6月と12月の年2回	
放し飼い(アヒル)	群を登録し、1月と7月の年2回、20%のサンプリング	

資料:聞き取りを基に機構作成

3 家きん防疫の取り組み ～コンパートメント～

- タイ畜産局は、高度な防疫体制の敷かれた生産施設の集合体をコンパートメントとして認定。
- 鳥インフルエンザなどの疾病が発生しても、コンパートメントからの輸出継続を認めるよう輸出先国と交渉。

コンパートメント

バイオセキュリティ、緩衝地帯、モニタリング、通報、トレーサビリティなどの管理措置をひなの供給、飼料生産、肥育、輸送、食鳥処理などの一連の生産工程全体において高いレベルで行うことにより、疾病の侵入リスクの低減や早期発見が可能となるような集合体。



飼料工場



ウインドレス鶏舎

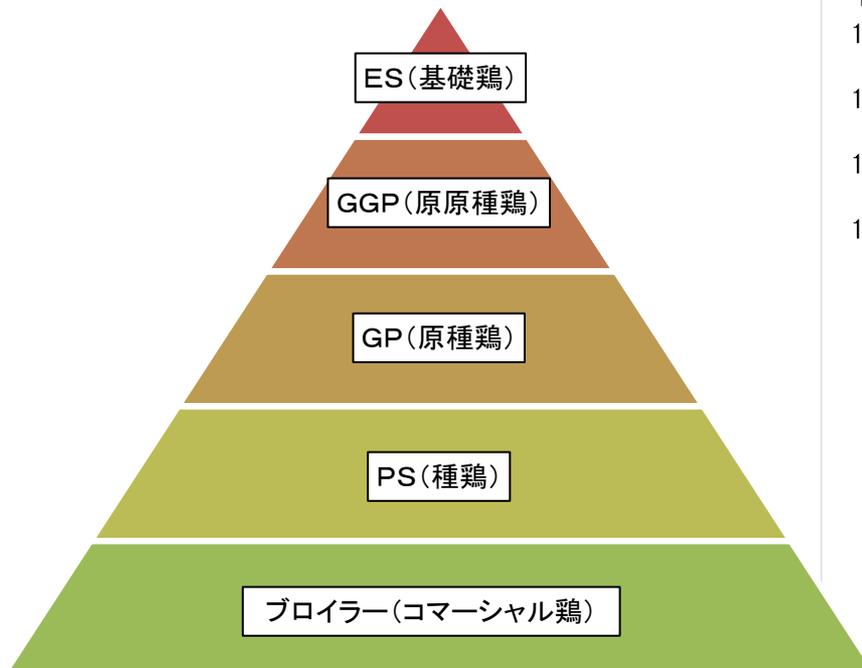


食鳥処理場

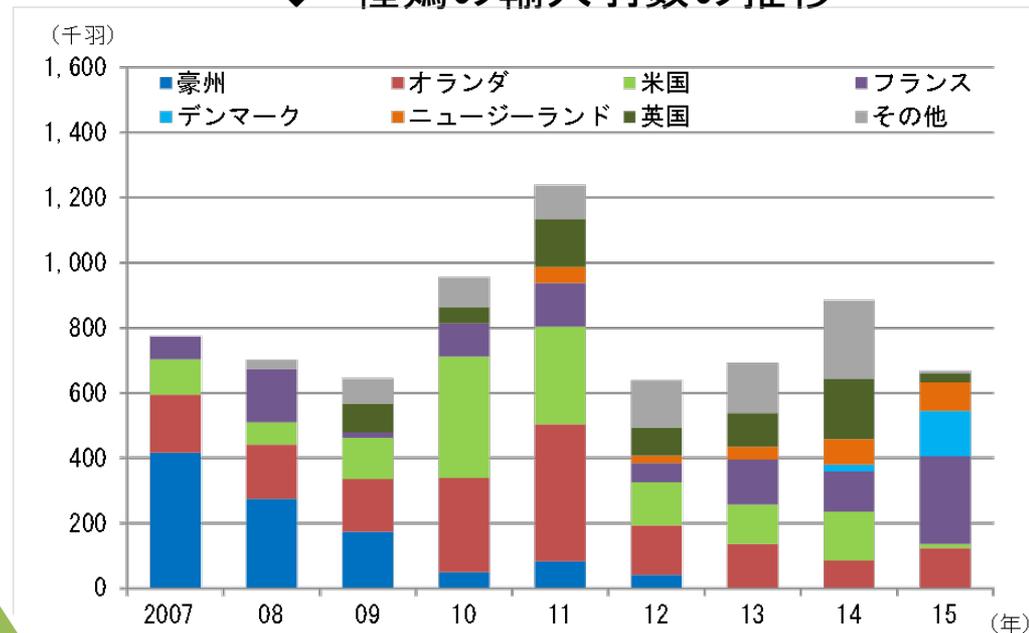
4 鶏肉生産・輸出の見通し ～種鶏の確保状況～

- タイの鶏肉生産は、大手鶏肉企業が米国を中心に輸入したGP(原種鶏)を基に展開。
- 2015年1月、鳥インフルエンザ発生により米国からの輸入が禁止されたことから、フランス、オランダ、ニュージーランドからの輸入で代替。

◆ 種鶏の区分



◆ 種鶏の輸入羽数の推移



資料：Global Trade Atlas

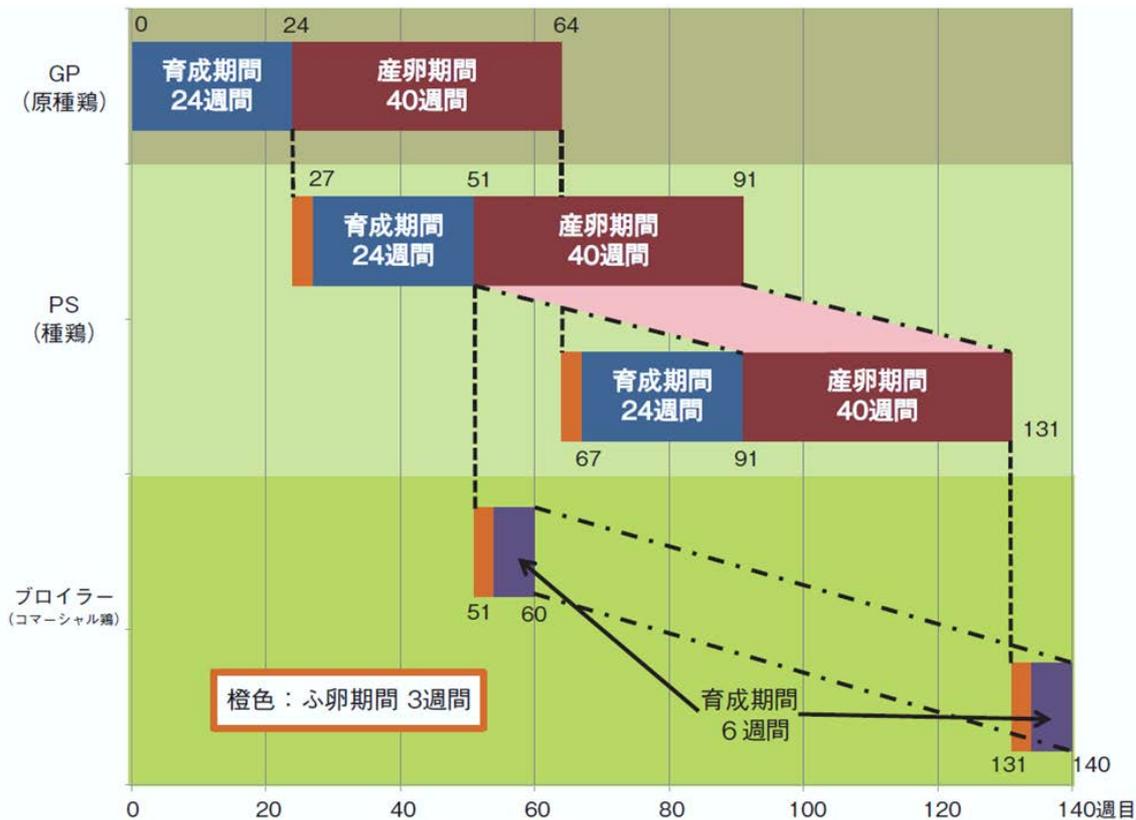
注：HSコード：種鶏-卵肉用の区別はない (01051110000)

資料：聞き取りを基に機構作成

4 鶏肉生産・輸出の見通し ～種鶏不足による影響～

- 米国からのGPの輸入をフランスなどに切り替えたものの、2015年2月～4月の輸入は不十分。
- 輸入されたGPからコマーシャル鶏が出荷されるまでの期間を考慮すると、2016年中頃から鶏肉生産量が減少する可能性。

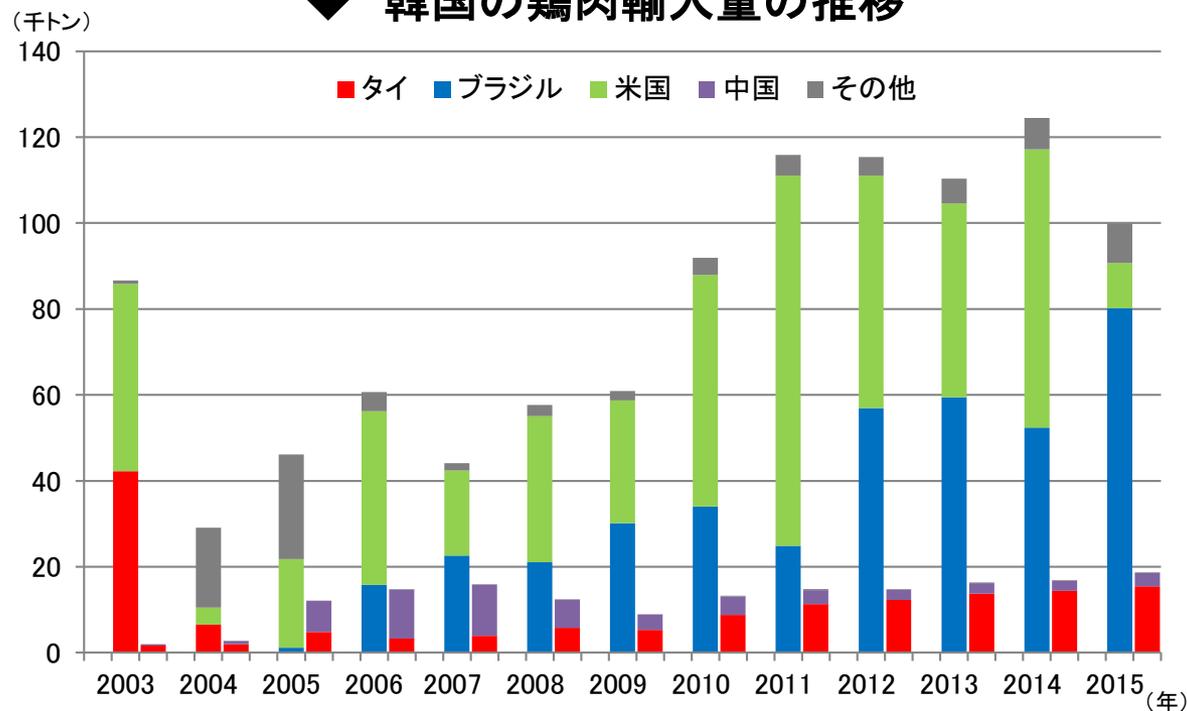
◆ GP、PS、ブロイラーの育成および産卵期間



4 鶏肉生産・輸出の見通し ~韓国向け生鮮鶏肉輸出再開への期待~

- タイの鶏肉業界は、未だ生鮮鶏肉輸入を再開していない韓国への輸出再開に期待。
- 生鮮鶏肉輸出が再開しても、付加価値の高い加熱加工品の輸出量も維持したいとの意向。

◆ 韓国の鶏肉輸入量の推移



左：冷凍鶏肉（HSコード：020714）、右：加熱加工品（HSコード：160232）

資料：Global Trade Atlas

4 鶏肉生産・輸出の見通し ~ASEAN共同体~

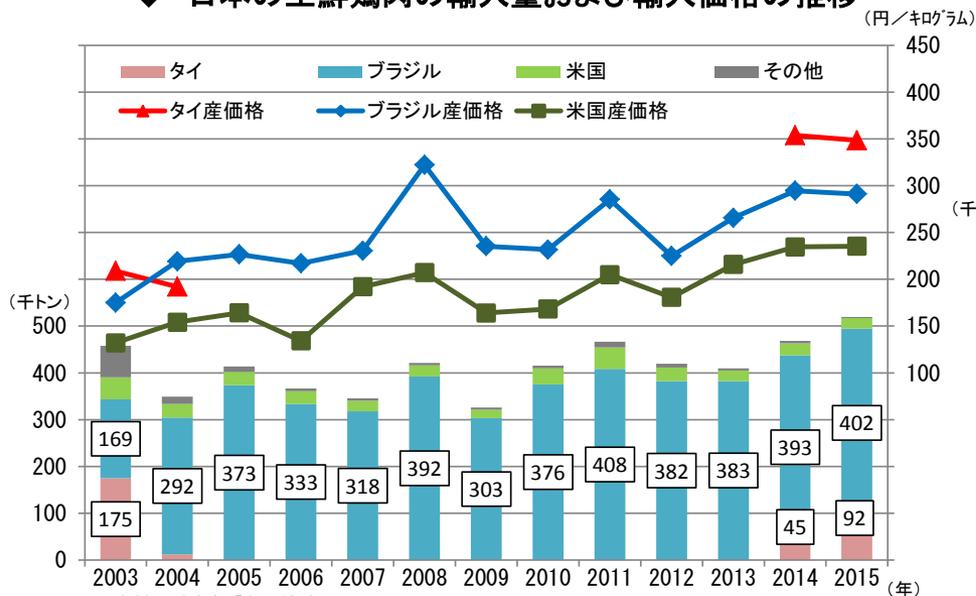
- ASEAN共同体の設立により、タイの鶏肉産業による東南アジア投資が拡大する見通し。
- ① トウモロコシの調達、② 安価な労働力、③ 一般特惠関税によるEU向け輸出がメリット。



4 鶏肉生産・輸出の見通し ～TPPに対する見方～

- タイでは、TPPに参加したほうが良いとの考えが主流だが、タイ養鶏業界は、安価な部位の輸入を懸念して、TPPに反対。
- TPPによる日本市場への影響は懸念していない。

◆ 日本の生鮮鶏肉の輸入量および輸入価格の推移

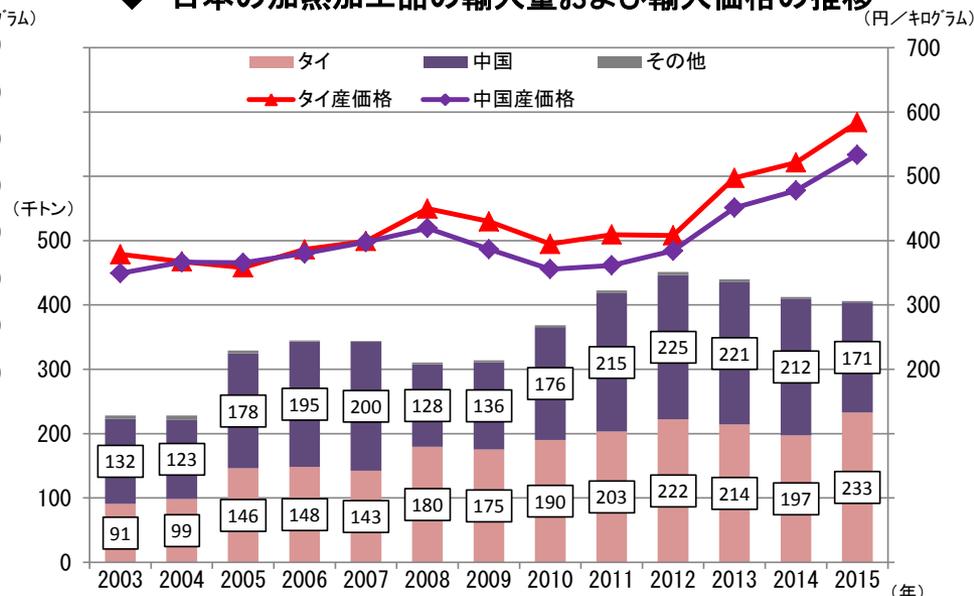


資料：財務省「貿易統計」

注1：HSコード：020714-210, 220（冷凍鶏肉-骨付き、その他）

2：輸入価格はCIF価格。

◆ 日本の加熱加工品の輸入量および輸入価格の推移



資料：財務省「貿易統計」

注1：HSコード：160232-290（加熱加工鶏肉）

2：輸入価格はCIF価格。

5. まとめ

- タイの鶏肉輸出は、EUや日本向け生鮮鶏肉輸出の解禁により増加。加熱加工品の対日輸出も、中国産鶏肉の安全性問題もあり増加。
- 過去に鳥インフルエンザの発生により生鮮鶏肉輸出が停止した経験から、家きん防疫を強化しているものの、裏庭養鶏などもあり、一定のリスクが存在。コンパートメントにより輸出を継続できる体制を志向しているが、解決には時間が必要。
- 米国からの種鶏輸入の停止の影響により、2016年半ば以降生産量がわずかに減少する可能性。
- タイ鶏肉業界はTPPへの参加に反対の立場。ただし、対日輸出への影響は心配していない。

ご清聴ありがとうございました。

สำนักงานปลัดสัตว์ จังหวัดฉะเชิงเทรา

<http://www.alic.go.jp/>

本情報は、情報提供を目的とするものであり、取引・投資判断の基礎とすることを目的としていません。本資料の正確性の確認等は、各個人の責任と判断でお願いします。提供した情報の利用に関連して、万一、不利益が被る事態が生じたとしても、ALICは責任を負いません。